

**対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力
「スパニッシュ・タウン病院医療機材整備計画」
引渡式**

２０１９年５月２９日、セント・キャサリン県のスパニッシュ・タウン病院において、対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力「スパニッシュ・タウン病院医療機材整備計画」の引渡式が開催されました。

山崎大使は挨拶の中で、今回の計画で整備された最先端の超音波診断装置によって、全ての妊産婦の皆様に質の高い医療を提供できることは嬉しいと述べました。また、ジャマイカの開発パートナーである日本として、人間の安全保障の理念を軸に、両国間のパートナーシップを一層強化していきたいと述べました。

スパニッシュ・タウン病院では、年間約５０００件の出産が行われていますが、故障続きの旧型の検査機一台では、一日あたりの診断可能数は１０名程度に制限されてしまい、必要なタイミングでの検査や処置の遅れに繋がっていました。今回のプロジェクトで導入される最新型の超音波診断装置によって、妊産婦が適時に適切な診断を受ける事ができ、母子保健の向上に繋がることが期待されています。

今般の署名式には、被供与団体である病院の代表の他、クリストファー・タフトン保健大臣、医師や看護師等を含む病院関係者、報道関係者などの来賓が出席しました。

ジャマイカ政府を代表して挨拶したタフトン保健大臣は、この支援はジャマイカ国民の医療事情の向上に大きく繋がるものであると高く評価し、日本政府と日本国民に絶大なる感謝の意を表明しつつ、この超音波診断装置を導入することにより毎週１００人の患者が診断を受けられるようになることを皆で喜びたいと述べました。



挨拶する山崎大使



挨拶するクリストファー・タフトン保健大臣



ドウェイン・フランシス スパニッシュ・タウン病院事務局長



供与された機材の前で手を取り合う山崎大使とタフトン大臣



病院の職員と山崎大使



式典に参加する病院関係者